

2025(令和7)年度 事業報告書

特定非営利活動法人ワークレッシュ

I 事業期間

2025(令和7)年 4月 1日 ~ 2026(令和8)年 3月31日

II 事業の成果と課題

● 新天地で新しい取組を始動

春期はまだ移転して間がなく、家具・器具の整理や補修、各所の変更手続きなどに時間と労力を要した。2024年末から呼びかけていたワークレッシュ再創生メンバーシップの仲間(賛助会員・寄付者)や、旧知の利用者・関係者に新規事業であるレンタルスペースやホームステイ合宿のモニター参加を依頼した。



屋内外の清掃や設営等にもくり返し助力を得ることができた。これが、当初の事業計画にはなかったが、後に定番の活動となる「養生 DAY」という活動につながった。初めは日時と内容を設定して参加を呼びかけていたが、10月以降は参加者の希望に合わせて日時と内容を設けることとし、工作や畑作業など、子どもや複数人でも取り組めるものは、SNS等で参加協力を呼びかけた。みんなのふるさとや別荘を共に築いていく実感があった。

オンデマンドホームステイ🍷まきぼのや〜ど(ホームステイ型合宿)は、ワークレッシュのマインドとエッセンスが集大成した、子ども・子育て応援に直結する取組と位置付けた。初年度、児童の参加は5名にとどまったが、下半期に入ると、予想外に大人の参加希望や問合せが重なった。いずれも、当日のみならず、事前の打合せ・コーディネートやふりかえりの会をおこなうなど、物理的・心理的安全性を重視し、念入りかつ慎重に進めた。

前面にPRすることのなかった提案持ち込み型の自主企画が活発で、和暮守ぶら坊と名付けたこの家は、やはり大家族的または同窓会のような集いの場に適していることをあらためて認識した。SNSでの発信は月1回程度に留まっていたが、その少ない情報でもキャッチしてくれた方たちから得られた企画提案等を受け、継続的な試行錯誤の取組が叶っている。

丁寧に手作りした企画は充足感が大きい。また、作物の提供や農作業等の体験・交流などにおける、地元の方の協力や存在感も絶大であった。

どの取組みにおいても、参加者の構成は、旧知の関係者・友人と紹介者が大半で占めた。6割以上の方が年度内に再訪されており、このつながりのもとでの企画の発展や連携の広がりを期待している。

一方で、収益と集客の基軸になると見込んだレンタルスペース事業（住み開きレンタルスペース和暮守ぶら坊）は、全くふるわなかった。世話人が新天地での生活や畑仕事、新しい事務ツールに慣れておらず、運営のコツや危機管理のポイントをまだつかみきれていなかったため、積極的なPRも叶わなかったことが大きい。その準備段階を経た次年度上半期中には、予約サイトを再構築し、自信を持って広報し、新たな参加者を募っていく。



このほか、設定した活動日以外にも、延べ70名を超える見学・視察があった（次頁の参加者数は含まず）。学びや情報交換の機会、並びに協力や助言の数々を得ることができた。

日々、来訪者や地域住民との、ひとりひとり多様多彩で、ボランティアで自由な、相互扶助的な関わりがある。里山の暮らしやふるさとの原風景と自然環境があり、その現場での生活体験の意義、多様な人と人・生物の往来と交流がもたらす効能や価値について、日毎に認識を改め深めているところである。また、参加者や来訪者から寄せられる率直な質問や熱い感想などを受け止めながら、設立当初からの理念は変えず、メッセージやキャッチフレーズはその都度変遷させている。

時には現場を離れ、府内都市部で開催される地域の居場所づくりの学習交流会や市内の会合に出向き、研修・交流の機会

はぐみまのこころ、まふまのこころ
泡ひのかみい暮らしの仕事を
日々水菜を食事に使われる毎日

和暮守ぶら坊
買場ぶら坊

Work+Creche

NPO法人ワークレッシュ
認定済
友だち 176

なつかしくてあたらしいみんなのふるさと
大阪府 貝塚市 蕎麦2008
workcreche.org/ 他4件

を得た。日常では会議や打合せにチャットツールやビデオ通話を活用しているが、他所で実際に見聞して学ぶ機会は、貴重な支えとつなぎめとなっている。都心や市街地で実践と挑戦を続ける同志や先達との関係継続によって、深刻な相談や急を要する支援に一次対応し、必要な人や社会資源と連携していけるよう、「いえ」として成長していきたい。

● 新たな取組と、定着・浸透へ

移転を決めた当初から、地域のためにできることは何かと模索をしていたところ、夏に近隣住民から具体的な提案を頂戴した。それが、次期からコミュニティカフェのかたちで進める「場づくり」につながった。複数回の試験運営を経て、次年度「おとも喫茶」の継続実施を決めた。世話人が職住一体で生活と活動の基盤を同一拠点におき、日常的に地域での交流機会があることで、早期に開始できたものと思う。当面はこのプロジェクトを地域活動としてあたため、業務エネルギーの分散を避けるため、人生見聞録・代稿ミンナレジェンドの活動は、次年度も待機中とする。

総体としての今後の事業活動は、少しずつタイプの異なる取組が自由度高く並走していくかたちになる。コアな支援者やリピーターだけでなく新規層にも伝わりやすい広報と、コンタクトしやすい仕組みに作り替える必要がある。いずれもいただいた相談・予約・提案に対し、基本的に先約を優先しながら柔軟に対応し、ひとりひとり/一組ごとの唯一無二の体験を実現することに伴走する。

2025年度の寄付・寄贈は事業収入の4倍以上だった。今はこれを誇りとし、支援者の厚意と賛同に頼りつつも、自由な責任感を持ち、次年度以降の商い収入を上げていきたい。



Ⅲ 事業の実施状況

1 特定非営利活動に係る事業

(1) 事業名 地域学習会の企画・開催「講師派遣」

(内 容) 講座の企画・進行

大阪狭山市市民活動支援センター主催

「団体立ち上げスタートダッシュ！応援セミナー」

(実施場所) 大阪狭山市役所南館2階

(実施日時) 2025年7月5日(土)・19日(土)14時～16時

(事業の対象者) 大阪狭山市民

(収 益) 75,000 円

(費 用) 32,291 円

(2) 事業名 地域の子育て相談と支援

① 和暮守ぶら坊(住み開きレンタルスペース)・養生 DAY

(内 容) 親子の遊びと憩いの場の運営、生活体験と交流の機会提供
園芸・清掃・工作・しつらえ等の共同作業 9回

(実施場所) 主たる事務所に併設の和室・居室

(実施日時) 2025年6月～2026年3月末

(事業の対象者) 子育て家庭とその友人知人 延べ25名

② オンデマンドホームステイ★まきばのや～ど・自主企画

(内 容) 生活体験・自然体験と地域交流の機会提供
合宿 7回、同窓会/交流会 10回
里山/溪流探索、調理調合ワークショップ、農作業等
公共機関主催のまつりへの出店 2回

(実施場所) 貝塚市蕎原2008番地(移転先)及び近隣施設等

(実施日時) 2024年5月～2025年3月末

(事業の対象者) ワークレッシュ再創生応援メンバーシップ賛同者と
家族・友人知人 延べ102名

(収 益) 1,192,184 円

(費 用) 1,995,231 円

内、施設等受入評価益/費用 747,444 円

ボランティア受入評価益/費用 53,032 円

2 その他の事業

実施していない

Ⅳ 社員総会の開催状況

第23回 定期総会

- (日 時) 2025年6月22日(日) 14時45分から15時30分
(場 所) 貝塚市蕎原 2008 番地 和暮守ぶら坊(玄関ホール)
(社員総数) 13名
(出席者数) 12名(うち委任状出席者 1名)
(議 事) 第①号議案: 2024年度 事業報告
第②号議案: 2024年度 収支決算報告
第③号議案: 2025年度 事業計画
第④号議案: 役員の選任
第⑤号議案: 2025年度 収支予算
第⑥号議案: 議事録署名人の選任

臨時総会

- (日 時) 2025年4月3日(木) 8時45分
(場 所) 貝塚市蕎原 2008 番地 事務局より発信
(社員総数) 12名
(出席者数) 10名(書面表決 8名)
(議 事) 第①号議案: 主たる事務所の移転
第②号議案: 役員の任期満了、退任
第③号議案: 正会員年会費の改定
第④号議案: 議事録署名人の選任

Ⅴ 理事会の開催状況

理事会

- (日 時) 2025年6月6日(金) 15時30分から17時00分
(場 所) 大阪府立花の文化園
(出席理事) 高見 一夫 燈田 礼子 和久 貴子
(議 事) 前年度決算状況、住所移転後の現況について

以上